

科目名	在宅看護援助論Ⅰ (在宅医療支援)	分野/教育内容	統合分野/在宅看護論
開講年次・時期	2年後期 令和4年12月1日	単位数/時間	1単位/30時間 〔 ①在宅医療支援：15時間 ②在宅療養支援：15時間 〕
担当講師名	芳賀 京子 先生	所属・役職	宮古山口訪問看護ステーション 所長
		資格・免許	看護師
授業の概要	地域で生活しながら療養する対象者及び家族を理解し、対象に応じた看護援助技術について学ぶことができる。		
到達目標	1. 医療的処置を必要とする療養者の特徴とヘルスアセスメントについて理解できる 2. 在宅における医療的管理の方法と留意点について理解できる		
事前学習内容	・講義に関連する基礎看護技術について復習してきてください。 ・講義に関連する章を熟読してから受講してください。		
成績評価の方法	1) 終講試験 100点満点（6割未満は再試験対象） 配点：在宅医療支援 50点＋在宅療養支援 50点 2) 出席状況		
使用テキスト	・地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術：メディカ出版、第2版第1刷、2022. ・地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア：メディカ出版、第7版第1刷、2022. ・写真でわかる訪問看護アドバンス：インターメディカ、初版第2刷、2021.		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	医療ケアの原理原則 薬物療法、がん外来化学療法		講義
第2回	排痰ケア、気管カニューレ管理 在宅酸素療法（HOT）		講義
第3回	在宅人工呼吸療法（HMV） ・非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） ・気管切開下間歇的陽圧換気療法（TPPV）		講義
第4回	排尿ケア、ストーマ管理		講義
第5回	在宅経管栄養法（HEN）、輸液管理		講義
第6回	褥瘡管理、足病変のケア、インスリン自己注射		講義
第7回	在宅CAPD管理、疼痛管理		講義
履修上の留意点	・既習の知識（病態・基礎看護技術・制度）を活用しながら在宅特有の看護援助方法を学習できるように、関連事項について主体的に予習・復習に取り組みましょう。 ・グループワークを行う際は、相手の考えを尊重する姿勢で臨むとともに、自己の考えを積極的に発言しましょう。 ・授業資料や自己学習の成果物は、3年次の在宅看護論実習に活用できるようファイリングしておきましょう。		

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	在宅看護援助論Ⅰ (在宅療養支援)	分野/教育内容	統合分野/在宅看護論
開講年次・時期	2年後期 令和4年11月28日	単位数/時間	1単位/30時間 〔 ①在宅医療支援：15時間 ②在宅療養支援：15時間 〕
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	宮古高等看護学院 専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	地域で生活しながら療養する対象者及び家族を理解し、対象に応じた看護援助技術について学ぶことができる。		
到達目標	1. 日常生活支援を必要とする療養者の特徴とヘルスアセスメントについて理解できる 2. 在宅における療養支援方法と留意点について理解できる		
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義に向けて、倫理原則、看護職の倫理綱領の内容を事前学習してきてください。 ・講義に関連する章を熟読してから受講してください。 ・次回講義に向けて、毎回予習課題を指示します。 		
成績評価の方法	1) 終講試験 100点満点（6割未満は再試験対象） 配点：在宅医療支援 50点＋在宅療養支援 50点 2) 出席状況 3) 課題の取り組み状況（内容の不足や提出期限超過は減点対象）		
使用テキスト	1) 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア：メディカ出版、第7刷第1刷、2022. 2) 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版、第1版第1刷、2022. 3) 写真でわかる訪問看護アドバンス：インターメディカ、初版第1刷、2020.		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	在宅看護における安全と健康危機管理 在宅療養生活を支える基本的な技術		講義
第2回	食生活		講義
第3回	脱水・熱中症		講義
第4回	感染症		講義
第5回	清潔		講義
第6回	肢位の保持と移動		講義
第7回	排泄		講義
第8回	災害対策		講義
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回事例検討を行います。既習の知識（病態・基礎看護技術・制度）を活用しながら在宅特有の看護援助方法を学習できるように、関連事項について主体的に予習・復習に取り組みましょう。 ・グループワークでは、相手の考えを尊重する姿勢で臨むとともに、自己の考えを積極的に発言しましょう。 ・授業資料や自己学習の成果物は、3年次の在宅看護論実習に活用できるようファイリングしておきましょう。 		

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	在宅看護援助論Ⅱ (地域看護)	分野 教育内容	統合分野/在宅看護論
開講年次・時期	2年後期 令和5年2月20日	単位数 時間	1単位/30時間 ①地域看護：15時間 ②リハビリテーション看護：6時間 ③医学的リハビリテーション：8時間 ※①②③合わせて1単位・30時間
担当講師名	山根 大助 先生	所属・役職	介護老人保健施設ほほえみの里 看護師長
		資格・免許	看護師
授業の概要	わが国の保健対策や福祉対策の概要を学ぶ。 在宅保健活動と連携する保健医療福祉施設の活動および看護師と他職種との関係のあり方を学び在宅保健活動の実践例を通して他職種との連携の実際を学ぶ。		
到達目標	1. 退院から在宅療養まで継続的な支援とそのプロセスを理解できる 2. 在宅ケアチームにおける看護師の役割と、関連機関・関連職種との連携・協働の重要性を理解できる 3. 早急な対応が必要となる場面に備え、事前の対策と連携について理解できる		
事前学習内容	介護保険法、地域包括ケアシステムについて復習してください。 講義に関連する章を熟読してから受講してください。		
成績評価の方法	1) 終講試験による評価 ①地域看護・・・100点満点 ※6割未満は再試験対象 ②最終成績 {地域看護(100点)+[医学的リハビリテーション(60点)+リハビリテーション看護(40点)]}÷2 2) 出席状況		
使用テキスト	地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（第7版 第1刷、メディカ出版） 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術（第7版 第1刷、メディカ出版）		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	地域アセスメント、地域包括ケアシステム（ケア：P88～）		講義
第2回	療養の場の移行に伴う看護（ケア：P103～）		講義
第3回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携（ケア：P114～）		講義
第4回	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント①（ケア：P121～）		講義
第5回	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント②（ケア：P121～） 事例検討		講義
第6回	在宅療養における健康危機・災害対策①（技術：P188～）		講義
第7回	在宅療養における健康危機・災害対策②（技術：P188～）、まとめ		講義
履修上の留意点	・自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨みましょう。 ・授業資料、自己学習の成果物は、3年次の在宅看護論実習に活用できるようファイリングしておきましょう。		

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	在宅看護援助論Ⅱ (リハビリテーション看護)	分野 教育内容	統合分野/在宅看護論
開講年次・時期	2年前期 令和4年5月10日	単位数 時間	1単位/30時間 ①リハビリテーション看護：6時間 ②医学的リハビリテーション：8時間 ③地域看護：15時間 ※①②③合わせて1単位・30時間
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	宮古高等看護学院・看護教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	リハビリテーションについて学び、地域との連携のあり方を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの目的や考え方について理解できる ・リハビリテーションの対象について理解できる ・障害者に関連した社会保障を理解できる ・リハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割を理解できる 		
事前学習内容	初回講義に向けては、序章および第1章を読んできてください。 次回講義に向けては、その都度指示します。		
成績評価の方法	1) 終講試験による評価 ①リハビリテーション看護・・・40点満点 ※6割未満は再試験対象 ※医学的リハビリテーション（60点満点）と合わせて100点満点 ②最終成績は①＋地域看護（100点満点）の平均点である 2) 出席状況 3) 課題の取り組み状況 提出期限の遅延や内容が不十分だった場合は終講試験結果から減点		
使用テキスト	リハビリテーション看護：メヂカルフレンド社、第3版第1刷、2021.		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	リハビリテーションの目的と対象（序章～第1・3章）		講義
第2回	障害のある人のQOLを支えるための考え方と福祉施策（第2章）		講義
第3回	チームアプローチと看護の役割、QOL向上に向けた働きかけ（第3・4章）		講義
	終講試験		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は後半に履修する医学的リハビリテーションと関連しており、病院から地域まであらゆる場面に共通するリハビリテーションの概念を学ぶ科目です。在宅看護の場面のみならず、臨床でのリハビリテーション看護の実践に生かせるよう授業に臨みましょう。 ・自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨みましょう。 		

令和5年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	在宅看護援助論Ⅲ	分野/教育内容		統合分野／在宅看護論
開講年次・時期	3 年前期 令和 5 年 4 月 12 日	単位数/時間		1 単位/15 時間
担当講師名	菊地 美紀 先生	所属・職位	所属： 咲希訪問看護ステーション 職位： 管理者	
		資格・免許	認知症看護認定看護師	
授業の概要	在宅看護に必要な看護過程とその展開を通じ、在宅看護の実際を学ぶ			
到達目標	さまざまな疾病や障害に特徴的な看護の展開方法を理解できる 在宅看護展開における具体的な安全管理や倫理的課題を理解できる			
事前学習内容	・ 訪問看護制度について ・ 地域包括ケアシステムについて ・ 宮古市（沿岸地域）の社会資源の情報収集 ・ 事例に関連する病態について（疾患から看護まで）			
成績評価の方法	終講試験 1 回（100 点満点）、レポート			
使用テキスト	地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 （メディカ出版、第 2 版第 1 冊、2022） 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア （メディカ出版、第 7 版第 1 冊、2022）			
授業回数	授業概要(主な学習内容)			授業形態
第 1 回	訪問看護技術（P. 18～） 精神疾患をもつ療養者への在宅看護（P. 228～）			講義 グループワーク
第 2 回	慢性期の療養者への看護（P. 204～、P. 224～）			
第 3 回	高齢者の在宅療養者への看護（慢性期・リハビリテーション期） （P. 210～、P. 213～、P. 238～）			
第 4 回	高齢者の在宅療養者への看護（急性期・急性憎悪） （P. 236～）			
第 5 回	神経系難病の療養者への在宅看護（ P. 206～、P. 220～）			
第 6 回	小児の在宅療養者への看護（P232～、P242～）			
第 7 回	終末期の療養者への在宅看護（教 P. 60～、P. 216、P. 239～			
履修上の留意点	・ グループワーク等を行う予定のため、 <u>予め 3～4 人程度のグループを作成</u> しておくこと ・ 活発なグループセッションができるように取り組むこと ・ 分からないことはそのままにせず、理解するための積極的行動をとること ・ 教科書を必ず読み、関連事項を予習して臨むこと			